ついては何の知識もなかった私にとって，この美浜で見聞した事すべてに驚くばかりでした。その中でも特に印象深いのは原子力による発電のしくみ，一般に恐れられているのと異り，発電所の付近も自然の状態と変わりない放射線量である事，原子力から出る蒸気を冷却するための海水も若狭湾から取るが，使用後は温排水として養殖いけすに利用している事。発電所を一歩出れば，みごとな根上がり松があり，これも県の自然保護のために代採せずに残してあると聞くと，さすがに日本的だと思いました。実に充実した一日だったと喜んでおります。

一方，電力について考えてみると，従来行われている火力発電では石油もこのまま消耗していくと，三十年ぐらいで危機だという事を聞いています。

火力発電は，原子力発電に比べて燃料である石油の貯蔵や輸送もにおいても大変であるし，又，燃焼による大気汚染も大きな社会問題となっている現代，電力を安定に供給するためには，今後原子力だけに頼る時代が来ることは当然予想されます。

今後，我が国において数多く原子力発電所が建設されることは，環境の保全その他に，必ずしも良いとは言えないが，更に研究が進められ，永久に人体に無害となる装置が設置され，人間の幸福に向かって発展していく事を願うものであります。

●昭和57年度基礎研究決定　（研究調査委員会）

去る7月28日都市文化センターサロンにて研究調査委員会を開催し、検討いたしました結果本年度は、基礎研究項目に次の4件が決定いたしました。なお、助成項目については、がいとう者がありませんでした。

研究題目　奈良・大和川水系の調査
　　―底生動物を中心とした環境指標の研究―
研究代表者　谷　幸三氏（奈良県立いかるが高校）
研究内容

環境庁の河川の水質汚濁調査結果で、大和川が全国ワースト1になっています。この大和川水系の底生動物の種類数の調査を行い、指標種の研究と汚染状態を調べ、あわせて生物学的水質判定を行う。

研究題目　大台ヶ原における大型哺乳動物相の現状、とくに分布と個体数の推定
研究代表者　三浦　慎悟氏（兵庫医科大学生物学教室）
研究内容

大台ヶ原にはカモシカ・クマなどの大型哺乳動物の生息が確認されてきたが、それらの詳細な生息状況はほとんど知られていない。本研究は、これらの分布と個体数推定の最初の試みである。

研究題目　環境汚染発生源と物質循環に関する調査研究
研究代表者　福渡　七郎氏（ウハラ化学研究所）
研究内容

環境汚染発生源の適当なものをえらび、発生物質とその総量を追跡し、その循還経路を明らかにし、環境と生態系に対するインパクトを減少させる具体的共存を求めつつ、最後に汚染発生に対する自己制御法（Self regulation weanings）を研究する。

研究題目　近畿圏におけるシイ・カシ類の生態分布とこれらの種の生理的特性に対する実験生態学的研究
研究代表者　平井　源一氏（大阪教育大学生物学教室）
研究内容

(1)シイ・カシ類は照葉樹林帯において最も重要な構成種である。これらの種は、温度、土壌水分等の環境傾度に沿った生態分布を示すため、環境指標として有効な植物である。したがって、シイ・カシ類の生態分布並びにシイとカシ類の混淆、あるいはカシ類の種間（アラカシ・シラカシ・ツクバネガシ・ウラジロガシ・アカガシ・イチイガシ・ウバメガシ）の混淆を明らかにすることにより、各地域の環境を客観的、複合的に把握しようとするものである。

(2)シイ・カシ類の生態分布を裏づける生理的特性として、種の光合成と耐凍性に関し、実験生態学的研究を行う。

関西自然保護機構会報　No.8
編集発行人　関西自然保護機構
編集委員　千地万造・石田志朗・渡辺弘之・佐藤治雄・堀　道雄・布谷知夫・山西良平
大阪市北区西天満4丁目10－7　書協ビル内　電話06－364－2422　郵便番号530　振替口座・大阪16679